

日本語教員養成課程

日本語教員養成課程（副専攻）

I 日本語教員について

日本語教育とは、日本語を母語としない人に、外国語として日本語を教えるもので、日本人が国内の学校制度で受けてきた国語教育とは異なる。

日本人だから日本語を教えるのは簡単だと思いがちだが、実際は、逆に、高度な専門的知識が必要とされる。グローバルな視点から日本語を分析・説明すること、日本の文化や社会を誤解のないように紹介すること、文化的に異なる背景を持つ人々のグループを適切に指導すること、などの能力が求められる。

日本語を学ぶ人の数はこの20年ほどで増加しており、日本語教員を目指す人の数も増えている。就職はそれほど容易ではないが、社会の国際化にともなって日本語教員の需要は増大するばかりである。日本語教員の活躍の「場」は、日本国内はもちろんのこと海外の大学・中学校・高校・小学校・日本語学校・国際交流団体・技術研修機関など、大変幅広くある。今、世界の多くの人々が日本語を勉強している。これらの人々の求めに応じられる日本語教員が必要とされている。

また、日本語教員を目指す人でなくても、日本語教員としての訓練を受けた人の異文化コミュニケーション能力は、将来、海外と関連ある企業等に就職を希望する人、NPO活動のボランティアや、海外青年協力隊員として国際的に活躍したい人にとっても役立つものになるはずである。

本学では、「教える知識」「教える技術」「国際人としての素養」を兼ね備え、国内のみならず海外でも活躍できる本格的な日本語教員の養成を目指す。そのために、日本語教育に関する知識・技術の修得は勿論、異文化間コミュニケーションに関する科目、あるいは日本の文化、歴史に関する科目など幅広く学習する独自の教育プログラムを用意している。

このプログラムの最大の特徴は、国内外での研修・実習の豊富さにある。必修科目として大学内で教育実習を行うだけでなく、1,2年次の短期のインターシップや3,4年次の長期の教育研修など、海外での日本語教育を体験する機会があり、これらはそれぞれプログラムの導入と仕上げを目的としている。加えて国内の日本語学校でも研修が複数回実施される。

なお、日本語教員としての能力を認定する試験として「日本語教育能力検定試験」がある。これは日本語教育の知識および能力が日本語教育の専門家としての水準に達していることを証明する検定である。本学の養成課程では、同検定に即して授業内容を構成している。

また、本課程は「副専攻」制度に含まれているので、副専攻のページも参照すること。ただし、他の副専攻と修得単位数及び手続き方法が異なるので、次ページ以降を確認すること。

Ⅱ 課程修了認定について

現時点では、日本語教員には、資格認定や免許制度がない。大学や専門学校などの養成機関は、文化庁から示された養成課程に関する指針に基づき、カリキュラムを組み、それぞれに課程修了認定を行っている。

本学も、副専攻登録を行い、所定の単位を修得した学生に、独自の課程修了認定証を発行している。修了証が必要な場合は、所定の手続きにより発行申請すること。

問い合わせ先：H棟3F 林 千賀研究室

登録および修了証の申請先：本部棟1F 教務課

Ⅲ 課程修了認定に必要な単位について

日本語教員養成課程に関する科目は、国際人文学部の国際文化学科・国際交流学科に設置されている。

以下の表にしたがって、合計33単位（必修24単位、選択9単位）を取得することで、修了認定証が交付される。なお、これらの科目はすべて卒業要件単位にも含まれる。

1. 必修科目（24単位）

領域	科目名	単位	国際文化	国際交流	備考
日本語に関する科目	日本語学概論 b	2	専門 I	専門 II	
	日本語の音声	2	専門 I	専門 II	
	日本語の語彙・意味	2	専門 I	専門 II	
	第二言語習得論	2	専門 IV	専門 II	
	日本語の文法 b	2	専門 I	専門 II	
グローバル教育	異文化間コミュニケーション論	2	専門基礎	専門 II	
日本語教授法に関する科目	日本語教授法 a（教授法）	2	専門 IV	専門 II	「日本語教授法 b・c」を履修するには、「日本語の文法 b」の単位を修得していることを条件とする
	日本語教授法 b（コースデザイン・評価）	2	専門 IV	専門 II	
	日本語教授法 c（教材・教具）	2	専門 IV	専門 II	
	日本語教育事情	2	専門 IV	専門 II	
実習	日本語教育実習	4	専門 IV	専門 II	

2. 選択科目（9単位）

領域	科目名	単位	国際文化	国際交流	備考
日本語教育に関連する科目	異文化理解	2	学科共通科目群Ⅲ（教養）	学科共通科目群Ⅲ（教養）	右の科目より、9単位以上を履修すること
	日本語学概論 a	2	専門Ⅰ	専門Ⅱ	
	言語学概論	2	専門基礎	専門Ⅱ	
	言語学	2	専門Ⅳ	専門Ⅱ	
	日本語の文法 a	2	専門Ⅰ	専門Ⅱ	
	言語・非言語コミュニケーション論	2		専門Ⅱ	
	社会言語学	2		専門Ⅱ	
	異文化適応論	2		専門Ⅱ	
	コミュニケーションインターンシップ	3	専門Ⅲ	専門Ⅳ	
	日本文化論	2	専門Ⅰ	専門Ⅰ	
	国際日本学	2		専門基礎科目群Ⅱ	
	多文化社会論	2	専門Ⅰ		
	文化交流史 a（日本：アジア）	2	専門Ⅰ	専門Ⅰ	
	文化交流史 b（日本：欧米）	2	専門Ⅰ	専門Ⅰ	
	国際関係論	4	専門Ⅳ	専門Ⅰ	

<登録から修了証授与まで>

副専攻は、まず教務課で登録すること。事前登録をしないと修了証の発行ができない。

学 年	手続き関係	費 用
1 学 年	4 月 オリエンテーション 登録カードの提出	登録時に 10,000 円
2 学 年		
3 学 年		
4 学 年	2 月 副専攻認定申請書の提出	認定申請時に 40,000 円
卒 業 式	3 月 副専攻修了証の授与	計 50,000 円